

海瀬先生研修会 報告

日時：令和6年1月25日～27日

テーマ「余暇活動を充実させるための座位」～運動、解剖、生理学の観点から～

○いぶき

症例①：Duchenne型筋ジストロフィー 21歳

課題：ハムストリングス、下腿三頭筋の短縮により、座位姿勢時の骨盤・体幹・頭頸部のアライメントが影響を受けやすい

アドバイス：座位姿勢の血流の状態を把握、座位時の体幹を挙上させるようにハンドリングすることで頭部の動きに自由度が増しやすい。また本人は身体感覚を言語化して伝えてくれるため聞きながら身体の動きを促していくことが大事。

症例②：小頭症、脳性麻痺、脳出血、てんかん 45歳

課題：端座位姿勢での集団活動が行えていない
ROM制限が強い、耐久性が低い

アドバイス：ライフステージに合わせた変化を与える、proneから座骨支持で座位に向けた準備を行っていく、臥位から抗重力活動に向かって姿勢変換していくときは次の目的に繋げていかないといけない

症例③：脳性麻痺 24歳

課題：座位保持や電動車いすで上肢操作(ipad)を行ったり、長時間の座位で膝伸展の代償運動がみられやすい

アドバイス：末梢の筋緊張が上がりやすいため、末梢の筋緊張を落としていくことで中枢部の筋緊張が落ちてきやすい。そうすることで上肢操作の機能性が向上しやすくなるのでipadの使い方を幅広く検討できる

○わかば

症例⑤：水頭症 10歳

課題：股関節屈曲内転内旋方向への緊張が入りやすく、姿勢を保つために腰背部や肩甲骨周囲への代償動作が表れやすい

野球をする際に体幹動揺が強くボールコントロールが難しい

アドバイス：下腿三頭筋、大腿四頭筋の収縮の評価をしっかりと行い、立位バランス、足部内反位のも確認していく。また年齢的にも身体のフィードバックをわかってくると思う為、そこも教育していく必要がある。

○実樹

症例⑥： 2歳

課題：独立した立位～歩行までとることが難しい。

アドバイス：下部体幹から骨盤周囲の動きが少なく、上部体幹や股関節内転の動きで代償していることが多い。また重心の動きの取り方が上部体幹でとっているため下部体幹へ下げていく必要がある。また本児が歩行について意欲がとともあるため歩く為に促していく必要がある。

○講義内容

- ・座位姿勢
- ・筋構造
- ・発達の考え方
- ・立位姿勢制御
- ・側弯資料